

2016年5月29日

日本長老教会設立記念講壇交換礼拝 礎教会説教要旨

「わたしの選びの器です」

使徒の働き 9章 10～20節

1 使徒の働き 9章は、パウロの回心の出来事とパウロの召命とアナニアの召命が記されていることから、重要な章であります。本日の礼拝はこのアナニアの召命に焦点を合わせます。ダマスコ在住の律法を重んじる敬虔なキリスト者であったアナニアに主のお招きのことばが届きます。「立ってまっすぐという街路に行き、サウロというタルソ人をユダの家に尋ねなさい。」(11節)しかし、アナニアは、サウロが教会と信者を迫害した中心人物だったことを知っておりましたので、この危険人物への警戒心は、なかなか取り除けそうもありませんでした。アナニアは主の召命に対して恐れ、不安を感じ従うことはできませんでした。(13節)

2 主の召命に関して聖書が明らかにしている事実は、アナニアだけでなく、誰もが恐れと不安に襲われ、その働きを断るということです。

(1) モーセがそうでした。

彼は「ああ主よ、私はことばの人ではありません。どうか他の人を遣わして下さい。」(出エジプト 3:10～13)と断るのでした。

(2) エレミヤもそうでした。

彼は「ああ神主よ、ご覧の通り私はまだ若くてどう語っていいのか、わかりません。」(エレミヤ 1:4～7)と主の召命を断るのです。

(3) サウロもそうでした。

アナニアは、「あなたは、イエスの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶために主から選ばれた器です。」とサウロに伝えます。しかしサウロはためらい、(使徒 22:16) 神からの召命を受け入れようとはしませんでした。

3 しかし彼らは、神の確かな支えと導きの中で、主の召命を受け入れ、その使命を果たしました。アナニアは、サウロに対して主イエスのおことばを最初に伝えた人、又彼に主にある兄弟として、挨拶した最初のキリスト者として聖書の歴史の中にその名を残し、聖書の舞台から去って行きます。

4 サウロの伝道者としての出発点において重要な役割を果たしたアナニアのように私たちも、「主に選ばれた器」として、イエスの御名を証し、兄弟姉妹の信仰を支えるという使命を果たして行きたいと思えます。